

Shin Club 31

㈱辰 通信 Vol.31
2002年10月
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f
Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

今月のトーク 「森の中のオフィス」 ～ウェイブ函館～

「株式会社インテリジェントウェイブ」の函館支社が、このたび弊社の企画、設計、監理で完成しました。同社はカード決済システムの分野をリードする、ソフトウェア開発のトップ企業です。新社屋は、開発・研究拠点と位置付けられ、公立はこだて未来大学卒業生の雇用や同大との研究提携でも大きな期待を集めています。建物は鉄筋コンクリート造、地上2階建て、延床面積約1170㎡です。

建設にあたって、同社の安達社長は、大手ゼネコンの出先に頼むより、地元の健全な施工店の方が安心であり、同社としてもむしろメリットがあると考えられました。東京の施工会社である弊社が参画したのは、同じような地域の建築屋として東京・渋谷で仕事をしている観点から、地元企業の選出に助言を求められたという背景があります。また、実際の設計にあたっては、

1. 函館の気候風土
 2. 建物周辺の環境
 3. 建物内で作業する人たちの健康と活力
- などに配慮する積極的な提案が求められました。

弊社では、従来より、人間にとって快適な環境を提供する「ESNA」(Ecological Space of Natural Amenity)という考えに基づいた建物づくり提唱しています。それらを元に、「インテリジェントウェイブ」のめざす建物のコンセプトをつくり、それを現地の会社に伝えるコミュニケーションの力もまた必要でした。

この建物は、「植物が元気に生きられる環境こそ人間にとっての良い環境」という当たり前の話を実現するため、室内に3つの花壇、7つのプラントボックスを作りました。特にここに植えたベンジャミンは5.5mの高さで、現地の関係者は建物の中に植物が入るイメージをなかなか受け入れられなかったそうです。そこで、弊社では、輻射加熱装置のピーエス株式会社の研究センター・IDIC(イディック:岩手県盛岡市)の見学会ツアーを企画し、施工店、下請けの皆様を招待しました。「百聞は一見にしかず」ということで、センターの建物内の樹木や花壇を紹介し、納得していただきました。

一方、竣工後、これらのプラントボックスの植物の手入れが大変なのではないかという心配をする向きもありました。しかし、簡易な自動灌水装置も導入し、業務に支障のないように最低限度は管理できるようにしてあります。むしろ弊社は、植物の気配を意識



北側外観

し、変化を楽しむ心が人間には必要なのではないかと提唱しました。コンピュータと向き合って1日を過ごす現代人には、生物としての感覚を失わないようにすることが実は重要課題になっているのではないのでしょうか。

建物の外側も見ていきましょう。周囲にたくさんの木を植え、森の中の仕事をイメージしています。コンクリート打ち放しの外観ですが、メインルームの外壁部分にはヒバ材とアルミの外断熱を採用しています。その内側では、低温で常時運転するピーエスのHRヒータを各コーナーに設置し、建物の躯体そのものを暖めてランニングコストの節約を図ります。また将来的に増床できるように、2階にスラブの梁をかけ、吹き抜けの高い天井を確保しています。天井には、サンヨーのソーライトを設置し、プラントボックスに太陽光をあてています。その天井にはMKボードを貼って、防湿、防音効果を高めています。(呼吸・調湿作用のある木と、微細な気泡をもち、断熱・吸音の機能を発揮する細多孔質セラミック粉末をセメントで固めたボード。美術館などにも採用されている。) 全体は大きな1つの空間ですが、仕切りに兼用されているピーエスのヒータや珪藻土のアーチ壁の色使いが明るく、寒々しい雰囲気を与えません。

「ウェイブ函館」はまさにESNAのコンセプトを実現したものとりました。設計を担当されたアトリエ・オヴニー様、函館のウォータースタジオ様、施工会社の高木組様、電気、設備、造園会社の皆様、そしてピーエスの皆様、ご協力にあらためてお礼申し上げます。

今回は別に設計者のデータシート(A4判)を作成しましたので、同封いたします。ご覧ください。

(データシート作成:松村拓也)



東南外観



西側からエントランスの通路を臨む



ベンジャミンが並ぶメインルーム



スタッフの皆さんとの記念写真

TOPICS

「平町集合住宅 地鎮祭」 (9月10日) 目黒区

構造:RC造、地上4階

用途:共同住宅

設計:

谷内田章夫/ワークショップ

完成予定:2003年6月



「K-HOUSE お引渡し」 (9月28日) 世田谷区

世田谷の雑木林の中に「居住性のあるギャラリー」をテーマにした、大きな木造住宅が完成。温熱環境にも配慮した快適な建物です。(写真は次号)
構造:木造、地上2階
用途:専用住宅
設計:鈴木孝紀 ㈱ハル建築研究所

「トモエアカデミー お引渡し」 (9月24日) 新宿区若葉 1-10

そろばんと言えば、「トモエソロバン」。創業は1921年。業界で初めてそろばんの全国統一価格を実現し、それまでの前近代的そろばん製造業からの脱皮を図り、生産から販売までの一貫した体制を作り上げました。OA化が進む現代、計算の手段そのものは電卓やパソコンにとって代わられたとも言えますが、子供の計算力は逆に落ちているのが現状です。



オープニング記念撮影

「ナンバーセンスを磨いたり、位取りの概念を身に付けるのにそろばんは最適です」という藤本トモエ社長は、英語でのそろばん授業や全身を使っての新しいカタチでのそろばん授業など、さまざまなアプローチで一人一人の個性に合わせたそろばん教育をこの新社屋で展開されていく予定です。

以前からそろばんの海外普及にも力を入れており、1996年いち早く英語と日本語の2本立てのホームページを立ち上げ、海外への通販にも対応されています。「Soroban Evangelist(そろばん伝道者)」の肩書きを持つ藤本社長は、国内始め、海外にもそろばんの応援者を集めるべく、駆け回っていらっしゃいます。各界のそろばん賛同者のメッセージが書き込まれたホームページの「そろばん応援席」は必見です。是非ご覧ください。 <http://www.soroban.com>

構造:鉄骨造、一部RC造 地上3階 用途:事務所 設計:高山勝樹 株式会社 開地総合企画



全景

「MASUNAGA 1905 お引渡し」 (9月16日) 港区北青山2-12-34

増永眼鏡店は、創業1905年の老舗。世界的にも有名なメーカーです。5年前からMASUNAGAブランドのイメージポスターを手がけているグラフィックデザイナー、サイトウマコト氏の総合プロデュースでこのたび「MASUNAGA1905」が完成しました。外苑西通りに面した、さび塗装のこの建物は、既存の眼鏡ショップとは明らかに一線を画す斬新なデザイン。機能面を重視した内装はアルミの壁、カラ松の床、スチールロッドで釣った階段、と軽快でシンプルです。蛍光灯で照らされたアクリル壁面のショウケースが、メガネのデザインをさらに引き立てています。

構造:鉄骨造、地上3階

総合プロデュース:㈱サイトウマコトデザイン室

設計:パルフィ・ジョージ ㈱パルフィ総合建築計画



INFORMATION

諸井邸建築フォーラム開催(9月21日、22日)

先月ご案内した駒込諸井邸の建築フォーラムは両日とも、たくさんの方のご参加をいただき、盛況のうちに終了しました。お申込みいただいた方々ありがとうございました。

内田青蔵文化女子大教授「モダン東京と住まい」(9月21日)、陣内秀信法政大学教授「まちと建物の歴史-イタリヤ都市と東京」(9月29日に変更)、両先生の話は建築の専門家以外の方々にも大変わかりやすく、また、21日はこの建物の設計を行った山脇事務所旧スタッフや山脇氏のお嬢様も見え、施工当時の話や山脇氏の人間像にも話が及びました。また機会があればこのような催し物を企画したいと考えております。



左上:内田先生講演、左下:玄関(ユニークなデザインの細いガラス窓) 右:玄関脇の茶室(緑台になっている。生活の西洋化を推進させる当時の風潮を示す応接間)